

第 3 回 館山市議会定例会会議録  
(第 5 号)



1 昭和62年9月28日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 脇田 安保  
3番 田沢 勝信  
5番 岩村 勝弘  
8番 鈴木 勝美  
11番 神田 守隆  
13番 山中金治郎  
15番 横溝 功  
17番 石井 謀  
19番 川名 正二  
21番 辻田 実  
23番 流山源次郎  
26番 近藤 好雄  
28番 飯田 義男

2番 永井 龍平  
4番 庄司二三男  
6番 山崎 雅己  
10番 鈴木 忠夫  
12番 榎本 春光  
14番 小宮 利夫  
16番 石井 昌治  
18番 日下 君敏  
20番 福原 勤  
22番 黒川 平治  
25番 渡辺 昭夫  
27番 林 豊

1 欠席議員 3名

7番 生稻 陸  
24番 松下 正己

9番 山口 康雄

1 出席説明員

市長 半澤 良一  
収入役 山田 俊康  
総務部長 飯野 芳郎  
経済部長 安西 良一  
教育委員会会長 正木 高嗣  
選挙管理委員会会長 加藤 利  
監査事務局長 橋本 巖利

助役 小倉 澄男  
市長公室長 錦織 茂  
民生部長 渡辺 弘  
水道課長 石井 敏夫  
教育委員会会長 福原 修  
救済委員 佐藤 輝雄  
事務局書記 池田 六郎  
農業委員会 農務局 会長

1 出席事務局職員

事務局長 庄司 利光  
書記 鈴木 哲  
書記 加藤 浩一

事務局長補佐 兵藤 恭一  
書記 土橋 康彦

1 議事日程（第5号）

昭和62年9月28日午前10時開議

- 日程第1 { 議案第28号 損害賠償の額の決定及び和解について  
議案第29号 昭和62年度館山市一般会計補正予算（第2号）
- 日程第2 { 議案第30号 昭和62年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）  
議案第31号 昭和62年度館山市老人保健特別会計補正予算（第1号）
- 日程第3 { 認定第1号 昭和61年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について  
認定第2号 昭和61年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について  
認定第3号 昭和61年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について  
認定第4号 昭和61年度館山市ユースホテル特別会計歳入歳出決算の認定について  
認定第5号 昭和61年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について  
認定第6号 昭和61年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について  
認定第7号 昭和61年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について
- 日程第4 議案第32号 人権擁護委員候補者の推薦について
- 日程第5 議案第33号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第6 議案第34号 館山市教育委員会委員の任命について

開 議 午前10時05分

○議長（飯田義男君） 本日の出席議員数25名、これより第3回市議

会定例会第 5 日目の会議を開きます。

#### 議案の配付

○議長（飯田義男君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

#### 議案の上程

○議長（飯田義男君） 日程第 1、議案第 28 号及び議案第 29 号を一括して議題といたします。

#### 総務委員会委員長報告

○議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各議案は、ともに 9 月 17 日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長渡辺昭夫君。御登壇願います。

（総務委員会委員長渡辺昭夫君登壇）

○総務委員会委員長（渡辺昭夫君） ただいま議題となりました議案第 28 号及び議案第 29 号に係る総務委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る 9 月 17 日の本会議におきまして本委員会に付託されました 2 議案につき、9 月 21 日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等につきまして、主なる事項を申し上げます。

議案第 28 号損害賠償の額の決定及び和解についてであります。まず事故の起きた状況について詳細な説明を求めるとともに、さらに慰謝料の算定について説明を求めましたところ、大蔵大臣の認可を受けた自動車損害賠償責任保険損害査定要綱に基づき、休業日数 33 日間、1 日 3600 円として 11 万 8800 円の算定をした旨、説明がありました。

なお、関連して、市で加入している保険の保険料と損害賠償の支出の状況について説明を求めましたところ、61 年度の一般会計における保

険料は強制保険において196万6000円、任意保険において197万2000円であり、損害賠償については59年度4件、73万9000円、60年度3件、19万9000円、61年度5件、69万9000円であった旨、説明がありました。

次に、議案第29号昭和62年度館山市一般会計補正予算第2号であります、まず歳入において売上譲与税、利子割交付金の減額に伴う補正財源についての問いに対し、売上税の廃案等に伴って市民税、たばこ消費税、電気税等の減税が行われなくなったことにより、国の地方財政対策の補正に基づき、今回市民税で4000万円、たばこ消費税で500万円の増額補正を行うとの説明がありました。

次に、土木債において3080万円の補正がなされておりますが、これが元利償還について説明を求めましたところ、都市計画街路八幡高井線に係る事業費の増額に伴うもので、街路事業については補助率が減少してきている中で基本的にはその差額について起債により財源を補てんすることで自治省、大蔵省の合意がなされており、今回、3080万円のうち元利償還をみてる分が2420万円、残りの660万円について一般財源で支出することになるとの説明がありました。

次に、歳出中、安房郡市広域市町村圏事務組合総務費負担金が増額されておりますが、この内容については、安房郡市としてリゾート整備計画に係る調査を行い、県の計画に反映させようとするもので、基礎調査委託費1086万円、企画担当職員の人件費649万5000円に対し、県の補助を差し引いた残りの館山市の負担分279万円であるとの説明がありました。

次に、半島振興シンポジウム開催について20万円の負担金が計上されておりますが、シンポジウムの目的等について説明を求めましたところ、南房総地区をはじめとして全国で19半島が半島振興実施地域として指定されているが、今回、国土庁、千葉県、南房総地域半島振興協議会の主催によりシンポジウムを開催し、それぞれ各地域の住民とともに地域振興について考え、半島振興の推進機運を盛り上げていこうとするもので、全国において3カ所で実施されるものであるとの説明がありました。

次に、海洋性リゾートタウン基本構想関連調査委託料が計上されてい

ますが、これが内容と前年度行った調査との関連について説明を求めましたところ、本年度当初予算で総合保養地域整備法における重点地域を想定しての調査を実施しているが、さらに法の動きにあわせて館山市全域の海洋性リゾートタウン計画を具体的に検討しなければならないということから調査を行うもので、前年度の調査は総合保養地域整備法に対応したものではなく、その実施した調査を参考にしつつさらに今年度の調査を進めていくものであるとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第28号及び議案第29号につきましては、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、総務委員会委員長報告を終わります。

○議長（飯田義男君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

○21番（辻田 実君） ただいま報告されました議案のうち、議案第29号補正予算案について、私は3点について意見を申し述べたいと思います。

順は不同になりますけれども、リゾート法の適用に伴いましていろいろな準備活動がされておるわけでございますが、今回補正予算におきまして当初予算として200万円の計上に対しまして500万円を追加するという非常に前例を見ないような大幅な増額をいたしまして、約700万円をもって総合研究所に海洋性リゾートタウンの調査を委託するということでございますので、この点につきましては私はリゾート法を何としても館山市において受け入れ、そしてこのことによって館山市が観光保養地として大躍進を遂げるように願うものでございます。

そういう意味からまいりますと、当初予算200万円、これを約2。

5 倍に増加しなければならなかったという、この当初予算に対するところの見通しの甘さと、リゾート法に対するところの対応の遅れにつきましては、私は強く指摘をしておくところでございます。しかしながら、今日の情勢の中で緊急を要する問題でございますので、この予算をもってリゾート法の適用が受けられた晩におきましては、館山市がその法の精神に基づきまして飛躍的な発展が遂げられるよう私は要望するものでございます。

したがって、この予算につきまして、私は2つほど要望をさらにいたしたいと思います。

一つは、広域圏を中心にいたしまして、三菱総合研究所に対しまして、920万といわれておりますけれども、今の委員長報告でございますと、1086万円をもって調査委託をするということが行われようとしているわけでございます。さらには、県議会におきましては、当初予算におきましてリゾート基本構想調査費として1000万円が同じく計上されているわけでございます。この広域圏並びに県の基本構想の調査と複合し、そのことがむしろリゾート基本法の適用を受けるための障害にならないように私は強く要望するものでございます。

と申し上げますのは、私は、本来的にはリゾート法の性格からいしまして、安房の広域圏を中心にいたしまして、安房郡市の町村がお互いに連携しあって、一本化でいくということが非常にいいんではないかというふうに思っておるわけでございます。そのことは1086万円の基本調査をもって委託するわけでございますから、これは差し支えないと思います。しかしながら、同時期に同種で館山市のみが三菱総研以外の研究所に競争的に同じ地域の中でもって、同じような目的と対象をもって調査をする。このことが今後民間業者の指定を受ける上、さらには安房郡市の統一的な運動の推進、こうした面において館山市がリーダーシップをとらなきゃならないのに館山市が走り過ぎというようなそしりを受けて、この目的が十分果たせないというようなことがございますと、非常に残念であるわけでございまして、そういう点については十分配慮をいたしながらリゾート法を何としても適用を受け、同時に適用を受けた晩におきましては、館山市がそうした面において飛躍的に発展されるよ



う要望するところでございます。

もう一点は、館山市は非常に水が不足しておりまして、大きな課題になっているわけでございます。このことが解決しない限りはどんな構想を立てても施設の設置、または基本構想の実施ということは困難でございます。最近、平砂浦の方に中規模のホテルが進出を予定しているそうでございますけれども、その中規模のホテルでございますけれども給水が非常に困難だ、こういうことでもって要するに制限給水をするという中においてようやく水を確保し、そして建築を許可する、こういう状況にあるわけでございます。したがって、こうした状況下において、この問題が解決されないでもって、どんな観光施設、そして人を呼ぶ施設、これはどうしても水が必要なわけでございますけれども、そのことは非常に不可能でございます。

最近、富浦等におきまして、水源地を確保して、そして水を確保するというところでございますけれども、こうした状況であっても、この水源を確保いたしましても、ダムをつくってこれからやるということになりますればどうしても3年、4年というものはかかるわけでございまして、そういう中で果たしてこうしたリゾート法に基づくところのいろんな施設や設備が可能かどうかということを考えているときに、非常に末恐ろしい思いがするわけでございますけれども、この点につきましてはどうか基本構想の調査の中でもって十分に明らかにしてもらいまして、こうした問題をいかに克服して、現実的にこうした構想に基づいたところの館山の大躍進ができるかどうかという点については、慎重を期して対処していただきたい、このことを要望するところでございます。

2番目には、地方債の繰り上げ償還でございますけれども、1億2600万円が計上されているわけでございます。この点につきましては、半澤市政の最も柱となる施策の延長においてこうしたことが行われたという点につきましては私は評価するところでございます。

しかしながら、それはそれといたしまして、今、館山市の中においては、特に水問題、生活道路の問題、さらには雑排水の処理の問題、そして観光開発、産業の育成等について非常に苦労されておりまして、予算がないということでもってこうした面において十分な対処ができておら

ない。そして、そういう中において特に昨年度の予算の中において教育費、さらには人件費等の抑制をする中でようやく生み出したところの繰越金、これをただ単に起債の償還に充てるということでございますと、やはり市民感情として、我々自身といたしましても納得のいかない点でございます。

この点につきましては、今回の処置につきましては私は半澤市政の基本的な路線でございますので賛成はいたしたいというふうに思いますが、しかしながら、1億2600万円を繰り上げ償還しなきゃならないという事情はそう切迫したものじゃございません。むしろ当局と議会とがお互いに協議した上において、この事業についてはこれだけの起債をもらって、そしてその起債については何年計画で償還していくんだという長期的な見通しを立てて、そしてそのことによって行われているわけでございます。したがってそれでやっていけばいいんであって、特にここで返さなきゃならないという理由がないわけでございます。

本来、こうした形でもって繰り上げ償還してはならないかどうかという問題についてはいろいろと方法がございます。一つは市有財産等処分して予想外の利益が出たとか、また何かの事情によって予想以上の剰余金が出た、こういう場合にはさしあたって償還金に充当するというのもあり得るかに思われます。そうしたことは一般的には政治上いいだろうということがいわれておるわけでございますけれども、今回のように市民生活が非常に逼迫しており、そしてこういう点もやってもらいたい、ああいう点もやってもらいたいという要望が出ている中で、そして市長の政治路線の中でもっていろんな経費を削減して浮いた、浮いた金については償還をすることによって決済をつけるというのは一つの方法でございますが、しかしながら、むしろその金は今、そういった市民の要求にこたえるところの施策に私は充当すべきだ、こういう意見を持っているということ。

そして、そういう要望が市民の中になんとか多くあるということを私は指摘をいたしまして、今後におきましてはこうした形で生み出されたところの繰越金につきましては建設的な面において使っていただきたい。特に、館山市は過疎化が進んで非常に内需が後退しているわけでござい

ますから、そうした面においてやはり市政に活力を生み出す意味からも事業費をふやし、積極財政を打ち出すことによって景気を回復し、活力を生み出すという方法が最も必要であろうかと思うわけでございまして、そうした面においては市長のこうした面に対するところのある程度の積極財政への転換を私は要望し、意見として申し添えておきたいと思うわけでございます。

さらに、もう一点は、都市計画街路の八幡高井線が今回補正予算を組まれまして建設されたわけでございまして、非常に長い間かかったわけでございますけれども、ようやくその着工をみましたことにつきまして是非常に歓迎するところでございます。まだ都市計画道路において指定がされてから着手に至ってないところが非常に多いわけでございますので、これを機会にいたしましてどうか都市計画街路の推進に努めていただきたい。

この3点を要望申し上げまして、補正予算については必ずしもすべて賛成ということではございませんで、こうした意見も持ち合わせ、そうした意見がある中にもかかわらず、やはり総体的には市長の一つの線というものにつきましては肯定をしながら、この補正予算については賛成をしていきたいというふうに思っておりますので、そうした意見を十分踏まえまして予算の執行にあたっていただきたいことを申し述べまして、私の賛成討論にかえさせていただきます。

○議長（飯田義男君） 以上で21番議員辻田実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第28号及び議案第29号に対する委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、議案第28号及び議案第29号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

○議長(飯田義男君) 日程第2、議案第30号及び議案第31号を一括して議題といたします。

#### 文教民生委員会委員長報告

○議長(飯田義男君) ただいま議題となりました各議案は、ともに9月17日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長榎本春光君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長榎本春光君登壇)

○文教民生委員会委員長(榎本春光君) ただいま議題となりました議案第30号及び議案第31号に係る文教民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る9月17日の本会議におきまして本委員会に付託されました2議案につき、9月21日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等につきまして、主なる事項を申し上げます。

議案第30号昭和62年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第2号について、今回疾病予防費として131万3000円が計上されていますが、前年度は当初予算に計上されていたものではないかとの指摘に対し、60年度、61年度において医療費適正化特別対策事業の指定を受け事業を実施し、本年度はその指定が終了したところであるが、本年度途中においてさらに引き続き事業を実施すれば補助が認められることになり、今回補正を行い事業を実施しようとするもので、全額国庫支出金をもって充当するとの説明がありました。

さらに、その中で、健康づくり推進委託料が計上されていますが、委

託の内容について説明を求めましたところ、保健推進員150人に住民と保健婦とのパイプ役としての仕事をお願いしているもので、保健事業の啓蒙活動、保健事業等に対する意識を把握するためのアンケート調査の実施、健康づくりパンフレットの配布を行っていただくものであるとの説明がありました。

次に、レセプトの点検について説明を求めましたところ、レセプトについては年間約14万件あり、これが審査については国保団体連合会で行っているが、市においてもそのすべてについて事務的な範囲で点検を行っており、その結果、60年度1291件、1569万円、61年度1538件、1533万1000円の過誤調整を行った旨の説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第30号昭和62年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第2号及び議案第31号昭和62年度館山市老人保健特別会計補正予算第1号につきましては、いずれも全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で文教民生委員会委員長報告を終わります。

○議長（飯田義男君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第30号及び議案第31号に対する委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、議案第30号及び議案第31号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

#### 議長の報告

○議長(飯田義男君) なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

#### 議案の上程

○議長(飯田義男君) 日程第3、認定第1号乃至認定第7号昭和61年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

#### 決算審査特別委員会委員長報告

○議長(飯田義男君) ただいま議題となりました各会計決算は、ともに去る9月18日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。よって、これより本決算に対する決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長林 豊君。御登壇願います。

(決算審査特別委員会委員長林 豊君登壇)

○決算審査特別委員会委員長(林 豊君) 認定第1号乃至認定第7号昭和61年度館山市一般会計及び特別会計決算に係る決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げます。

去る18日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各決算につきまして、24日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

審査にあたっては、提出された説明資料に基づいて市当局の考えをただし、あるいは処理状況の報告を求め、さらに今後改善すべき点、検討を要する事項を指摘、要望しつつ審査を行った次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、論議されました主なる点につきまして御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。

第2款総務費中、総務管理費において行政事務委託料1219万3000余円が支出されていますが、この内容について説明を求めましたところ、市が町内会等に対し広報、回覧文書の月2回の配布を委託しているもので、年、均等割1町内会当たり4500円、世帯割1世帯当たり630円として算定している、毎年物価上昇率、人件費等を考慮しながら増額しており、県下の他市と比較しても中位にあり適当な額ではないかとの考えが示されました。

次に、宿直員賃金141万9000円が支出され、職員の退庁時から翌朝まで2人の臨時職員が交代で宿直を行っているとの説明がありましたが、1人で十分に対応ができるのか懸念される面もあるので他市の状況等調査をされ、問題の起こらないよう配慮方を要望いたしました。

次に、国鉄内房線複線化促進期成同盟負担金4万円が支出されていますが、この会の目的等について説明を求めましたところ、内房線の全線複線化を最終目標に、当面は君津・館山間の複線化計画の樹立を要望しており、61年度は通勤時間帯の車両の増加、増発等について要望し、成果は上がっていると思うが、さらに今後も努力する旨説明がありました。

さらに、京葉地帯経済協議会負担金が支出され、この協議会において本市は内房線の複線化促進の観点から鉄道部会に属しているとの説明がありましたが、君津・館山間の一括複線化であっても早急に実現を図ることは難しいので、効果的な部分複線化を図り、事態の緩和を図るべきではないかとの意見がありました。

次に、交通安全対策について各委員より質疑がなされ、安全施設の整備状況について詳細に説明を求めました。

特に道路反射鏡については、61年度46基の設置をし現在までに812基となっている、市職員において随時チェックを行っておるが、住民からの設置の要望があった場合、現場をみて、必要と認める場合には設置の方向で進めており、年間50基を目途にしているとの説明がありました。

なお、市の事業は、交通安全対策特別交付金の交付の枠にとらわれているわけではなく、交付金を上回る支出をして整備に努めている旨の説

明がありました。

次に、徴税費中、納税組合奨励金 1 1 3 6 万円余が支出されておりますが、市税等を容易かつ確実に納付していただくことを目的に組合が組織され、前年度実績により奨励金を交付しているもので、組合による納付金額については、固定資産税、都市計画税、市民税個人分、軽自動車税合計で 7 億 6 7 6 3 万 1 0 0 0 円であったとの説明がありました。

次に、市役所から遠い地域の市民に対し戸籍、住民登録関係の証明書の発行の際の利便を図ることについては、過去に本会議においても論議されてきていますが、最近、郵便局と連携しての発行をしているところがあると聞くが、本市において検討されているか質問しましたところ、市内の全郵便局を対象に郵送による発行について現在検討中であり、できれば近いうちに行いたいとの説明がありました。

次に、第 3 款民生費であります。社会福祉費中、安房郡市広域市町村圏事務組合精薄施設費負担金 3 1 8 9 万 1 0 0 0 円については中里の家に係るもので、現在定員どおり収容されている旨の説明がありました。が、自立のための生活訓練の設備がまだ生かされていない面も見受けられるので、今後訓練等の充実について要望いたしました。

次に、高額療養費貸付金 2 0 0 万円の支出がされていますが、貸し付けについては社会福祉協議会に委託しているもので、6 1 年度貸し付け人員 4 6 名、貸し付け金額 1 2 5 9 万 4 0 0 0 円であり、また貸し付けにあたってはそのすべてが請求書の段階で貸し付けを行った旨説明がありました。

次に、館野保育園災害防除工事請負費として 2 1 0 万円の予備費充用がされていますが、予備費充用する緊急性があったのかただしましたところ、保育園裏のがけ地の土砂が崩れ、さらにまた大雨等により地盤がゆるむ可能性も十分想定できたので、早期に対策を講じる必要があったとの説明がありました。

次に、第 4 款衛生費であります。河川の浄化対策に関連して海水の汚染について質疑がありました。

海水浴場開設時における糞便性大腸菌群の発生の原因としては、畜産によるもの、浄化槽の未整備によるものが考えられ、今後さらにその点



検等強化していくこと、その検査については河川の水質検査と違い特別な知識、技術が必要で検査器具も全く違うが、過去2、3年の海水検査に伴う影響をかんがみ、技術の習得等について検討しなければならないと考えている旨説明がありました。

また、河川の汚濁防止については、公共下水道の整備が最も有効であるが、多額の費用、年限、住民の高額な負担を要し数年の間に着手する可能性は薄いので、各河川の汚濁状況をみながら、従来モデル的に実施している河川浄化の方法を拡大していく計画であるとの説明がありました。

次に、安房郡市広域市町村圏事務組合保健衛生費負担金として107万7000円の支出がされていますが、この内容について説明を求めましたところ、地域住民の生命と健康を守るため、安房医師会の協力を得て夜間待機施設、夜間急病診療所の設置、日曜、休日の在宅当番医制度の実施など、地域緊急医療体制の整備を図るもので、負担割合は均等割20%、診療件数割80%であると説明がありました。関連して、他地域の医療機関を利用している市民も多い実態から、今後も医療体制の充実について広域的な面から検討されるよう要望いたしました。

次に、第5款労働費であります。勤労者団体補助金160万円の支出の内容について説明を求めましたところ、安房地区労働組合協議会の行う文化学習会、生活相談所、メーデー、体育大会、スキー教室、囲碁将棋大会等の行事に対して交付するものであるとの説明がありました。

次に、第6款農林水産業費であります。畜産協同組合に委託した豊房育成牧場のその後の状況については、専門家ということもあって足腰の強い牛ができ上がっているということで各畜産農家から喜ばれており、常時100頭の預託があるとの説明がありました。

次に、第7款商工費であります。海岸の清掃について質疑がなされ、海岸清掃等人夫賃金については年間を通してのもので、また夏季海岸清掃委託料については夏季における海岸の清掃11カ所について部落、民宿組合に清掃を委託しておるものであるとの説明がありました。この程度の予算で海岸の清掃が十分に行えるか、さらに機械力を導入したらどうかとの指摘に対し、62年度においてダンプを1台購入、ビーチクリーナーにより清掃を行い、予算も増額し、清掃に努めていると

の説明がありました。

次に、土木費であります、市道認定路線 875 のうち部分的あるいは全路線の未舗装は 157 路線、61 年度 4 月 1 日現在の舗装率は 83.8 % であり、また今後も道路整備計画を立てて対処していきたい旨説明がありました。

次に、住宅費中市営住宅補修工事請負費において約 600 万円の支出がされていますが、補修工事に対する市の考え方について伺いましたところ、公営住宅の管理についての国、県の指導によると、修繕費は大体家賃の 30 % を計上することとなっており、要望のすべてはまかない切れないが、それを上回る支出をしているとの説明がありました。

次に、第 9 款消防費であります、消防自動車の購入については、年次計画を立て、BS については 12、3 年、CD1 については 14、5 年、大型については 16、7 年の経過をみた上で、地域性も考慮に入れながら整備をしてきており、購入年度の関連もあって最近では 2 台ずつ補充をしているが、65 年度ぐらいから 1 台で済むのではないかとの説明がありました。

次に、防火水槽建設工事請負費 1280 万円が支出されていますが、これは有蓋 3 基、無蓋 1 基の設置をしたもので、設置にあたって地元からの寄附金については、事業費の 8 分の 1 としているとの説明がありました。

さらに今後の計画については、毎年度 4 基から 6 基程度を計画しており、地元の要望により消防団幹部等が実際に各地域を回って判定をし、必要と認めたものについて計画していくとの説明がありました。

次に、第 10 款教育費であります、小学校費中、神余小学校校舎屋根葺替工事が行われておりますが、神余小学校の児童数の状況と統合問題について説明を求めましたところ、児童数については、61 年度 40 名、62 年度 36 名、63 年度 33 名、64 年度 40 名、65 年度 49 名と推測される、また統合方針については現在も変更はなく話し合いを継続しているとの説明がありました。

次に、歳入であります。

今回、歳入歳出差引額 4 億 3 1 6 2 万 1 0 0 0 円余が生じたことにつ

いては、本会議においても論議され、その主な理由として市税の伸びが挙げられておりましたが、市税の見積もりが甘かったのではないかと指摘に対し、61年度は円高不況ということで厳しい見込みをした、1月に償却資産の増がわかったが、国においても歳入の減額補正を行いながら歳入が伸びているというように非常に流動的で見通しが困難な状況にあったため、歳入欠陥を生じて困るということで特に補正はしなかったとの説明がありました。

市税の伸びについては予測し得たのではないか、またその予測し得た時点で補正を行い、他の事業等を積極的に実施すべきではなかったかとの意見がありました。

次に、第5款国有提供施設等所在市町村助成交付金については、自衛隊基地に係るものでありますが、固定資産税並みの評価による交付があるべきではないかと指摘に対し、全国市長会の基地協議会に本市も参加し運動を続けている、固定資産税並みということはなかなか実現できないが、除々に改善されているようで、今後もさらに努力を続けていきたいとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計であります、保険税の徴収率については、前年度対比現年度課税分で0.19ポイント増、滞納繰越分で7.05ポイント増、合計0.59ポイント増と伸びているが、収入未済額については増加となっている、市税と同様に隣戸徴収の強化をし、また全庁的な職員の応援体制をつくり滞納整理を図ったところであるが、今後状況によっては国保を最優先税目として滞納整理にあたっていきたいとの説明がありました。

次に、水道事業特別会計であります、過去に水源調査を行っている神余ダムの今後の見通しについて説明を求めましたところ、現在、リゾート整備の関係等から急速に将来的な水需要の伸びが予想されるところであり、次年度あたりからさらに新ダムの建設に向かって検討を進めていきたいとの説明がありました。

また、水道事業特別会計決算審査意見書の業務実績表に示された有収率の漸減に対する当局の見解をただしたところ、道路改良工事などに起因する漏水等が考えられるところであるが、有収率は効率的運営、経営

の健全化に特に重要なポイントとして留意すべき事項であり、さらに慎重に対処してまいりたいとの考えが示されました。

次に、国民宿舎特別会計であります。監査委員の決算審査意見書の中で、累積欠損金はなお増高の見通しにあるので援助等含めた抜本的な方策を期待すると指摘されていることについては、今後十分検討し、対応してまいりたいとの考えが示されました。

次に、討論を行い、一般会計については、幼稚園、保育料の値上げ等住民負担が増加している中で、4億もの黒字であるというのは理解しがたいこと、国保会計については、退職者医療制度の導入に伴って国の補助金カットを色濃く反映し、しかも保険税は限界に近い状況であること、またその中での黒字決算であること、老人保健会計については、老人負担の増額がされたこと、等から認定に反対するとの意見がありました。

以上、決算審査特別委員会におきます審査の概要を御報告申し上げましたが、本決算については、予算議決の趣旨に沿っておおむねその目的を達し得たものと認め、採決の結果、付託を受けました認定第1号一般会計歳入歳出決算、認定第2号国民健康保険特別会計歳入歳出決算及び認定第3号老人保健特別会計歳入歳出決算については賛成多数をもって、認定第4号ユースホステル特別会計歳入歳出決算、認定第5号学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算、認定第6号水道事業特別会計収支決算、認定第7号国民宿舎事業特別会計収支決算については全員一致をもって、それぞれ認定すべきものと決しました。

以上、決算審査特別委員会におきます審査の概要を申し上げまして、委員長報告を終わります。

○議長（飯田義男君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1 1 番議員神田守隆君。御登壇願います。

( 1 1 番議員神田守隆君登壇 )

◎ 1 1 番 ( 神田守隆君 ) 認定の第 1 号昭和 6 1 年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について反対の討論をいたします。

昭和 6 1 年度館山市一般会計決算では、国庫支出金が対前年度比 1 億 4 0 0 0 万円余と大幅に減少をいたしました。昭和 6 1 年度は中曽根自民党内閣が今後 3 年間にわたる国庫補助金等のカットを実施した初年度であります。この国庫補助金のカットは地方団体が反対する中で昭和 6 0 年度に 1 年限りという条件で実施されたものでありますが、中曽根内閣はこの約束に反して昭和 6 1 年度から 3 年間にわたって地方団体に犠牲を押し付けたのであります。カットの規模や対象も拡大されました。軍備拡大と大企業奉仕のために館山市財政など地方財政を犠牲にする中曽根自民党内閣のやり方は許せません。特にお年寄りや障害者、子供たちのための各種福祉施策に対する国庫負担率の引き下げは許せません。市、町、村などの地方団体は、中曽根自民党内閣のこの福祉切り捨てに反対し、住民の暮らしを守る防波堤にならないと考えます。

こうした中において、館山市一般会計決算では 4 億 2 6 0 0 万円もの黒字決算となりましたが、これは館山市の財政規模としては大き過ぎる黒字であります。この財源を活用して減税や市民負担の軽減、市民福祉の向上、さらに緊急に整備が求められている生活環境の整備など、市民の暮らしを守るために充てられるべきではなかったかと考えます。3 年ごとの見直しという方針を変更して 2 年目で値上げを実施した幼稚園保育料など、値上げの必要はなかったと考えます。

市は、民間企業とは異なり、黒字が大きければ大きいほどよいというものではありません。市民の税金が効率的に市民の福祉の向上に寄与しているのかどうかということでこそ考えなければなりません。財政の見通しを的確に行い、市民の暮らしを守るために見込める財源を積極的に活用するよう主張して反対討論といたします。

次に、認定第 2 号昭和 6 1 年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について反対の討論をいたします。

国民健康保険税は、対前年度比、収入済額で 2 億 5 1 0 0 万円余、9. 7 % の増税となっています。国保税はすでに負担の限界を超えているに

もかかわらず実施された増税であります。決算では1億3800万円余の黒字決算となりました。国保税は値下げするべきであります。国は国庫負担率を元に戻せと大きな国民運動にしていかなければならないと考えます。

また、市は当面、緊急対策として一般会計から国保会計に繰り入れを実施し、国保税の値下げをするよう主張いたします。さらに、国保税の減免について、その実施規定を明定化するよう求めます。

以上の点を主張し、反対討論いたします。

○議長（飯田義男君） 以上で11番議員神田守隆君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告しない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、認定第1号一般会計決算について起立により採決いたします。

認定第1号についての委員長報告は認定すべきものであるとするものであります。

認定第1号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、認定第1号一般会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第2号国民健康保険特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第2号についての委員長の報告は認定すべきものであるとするものであります。

認定第2号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、認定第2号国民健康保険特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第3号老人保健特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第3号についての委員長の報告は認定すべきものであるとするものであります。

認定第3号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、認定第3号老人保健特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第4号乃至認定第7号の各特別会計決算について一括して採決いたします。

認定第4号乃至認定第7号についての委員長の報告は認定すべきものであるとするものであります。

認定第4号乃至認定第7号を委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、認定第4号乃至認定第7号各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。

#### 議案の上程

○議長（飯田義男君） 日程第4、議案第32号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（飯田義男君） 議案の朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

○議長（飯田義男君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第32号人権擁護委員候補者の推薦について提案理由を御説明申し上げます。

昭和62年9月30日をもって任期満了となります人権擁護委員1名につきまして、人権擁護委員法第6条第3項の規定により候補者の推薦を求められておりますので、引き続き西村真次さんを最適任者として御推薦申し上げたいと存じます。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

### 質 疑 応 答

○議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

### 委員会付託の省略

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

### 討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

### 採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）



○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

○議長（飯田義男君） 日程第5、議案第33号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（飯田義男君） 議案の朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

○議長（飯田義男君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第33号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について提案理由を御説明申し上げます。

館山市固定資産評価審査委員会委員中、秋丸清彦さんが昭和62年10月5日をもって任期が満了いたしますので、引き続き同君を最適任と考え選任いたしたく存じます。

御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

#### 質疑応答

○議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を結びたいします。

#### 委員会付託の省略

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

#### 討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

#### 議案の上程

○議長（飯田義男君） 日程第6、議案第34号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（飯田義男君） 議案の朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

○議長（飯田義男君） 議案の説明を願います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第34号館山市教育委員会委員の任命について提案理由を御説明申し上げます。

館山市教育委員会委員中、杉村芳枝さんが昭和62年9月30日をもって任期が満了いたしますので、引き続き杉村さんを適任と考え任命い

たしたいと存じます。

御賛同賜りますようお願い申し上げます。

○議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

### 質 疑 応 答

○議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

### 委員会付託の省略

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

### 討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

### 採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

閉 会 午前 11 時 12 分

○議長（飯田義男君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第 3 回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

1 議案第 2 8 号乃至議案第 3 4 号

1 認定第 1 号乃至認定第 7 号

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

館山市議会議長 飯 田 義 男

館山市議会議員 庄 司 二 三 男

館山市議会議員 流 山 源 次 郎